

この時期の防除は作物の生育状況に合わせて行う必要があります。本年は気温が高く推移しており、果樹の生育や病害虫の発生が平年よりも早まる可能性があるため、園内の生育状況を観察するとともに、適期防除が行えるように準備しておきます。

<果樹類全般・果樹カメムシ類>

令和3年3月24日に農業技術防除センターから発表された病害虫発生予察情報第12号(4月の予報)によると、チャバネアオカメムシの越冬量は平年よりやや少ない(前年より少ない)となっています。ちなみに隣県の福岡県、長崎県ともに同じ状況です。万が一、園内で本虫の発生が認められた場合は防除を行ってください。

<ハウスミカン>

○ミカンハダニ対策

収穫2か月前を目安に、ダニコングフロアブル 2,000倍やバロックフロアブル 2,000倍等を散布します。完全着色期以降の園では、ダニエモンフロアブル 4,000倍又は粘着くん水と和剤 500倍を散布します。いずれも散布ムラがないよう丁寧に散布してください。

○アザミウマ類対策

アザミウマ類のハウスへの侵入を防ぐために、開放部にアルミ蒸着シートや光反射シート織込ネットを設置します。加えてハウス周囲に1~2m幅のタイベックシートを設置するとより効果的です。

アザミウマ類は種類によって効果の高い薬剤が異なるため(表1)、トラップ調査等により種類の確認を行ってください。種類の確認方法がわからない場合は普及センター、試験場等に問い合わせてください。

表1 ハウスミカンのアザミウマ類防除薬剤

アザミウマの種類	薬剤名	IRAC コード ※1	希釈倍率	収穫前日数
ミカンキロアザミウマ 及びネギアザミウマ	ファインセーブフロアブル	- 5	2,000倍 10,000倍	7日前まで 前日まで
	ディアナWDG	5	倍	7日前まで
	スピノエースフロアブル		4,000倍	
ミカンキロアザミウマ	ウララ 50DF※2	29	5,000倍	7日前まで
	ダズバン DF※3	1B	3,000倍	14日前まで
	コテツフロアブル	13	2,000倍	で 前日まで

ネギアザミウマ	ハチハチフロアブル	21A	2,000倍	前日まで
---------	-----------	-----	--------	------

※1 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード（-は未設定）

※2 「みかん」で登録有

※3 「みかん（施設栽培）」で登録有

### <露地カンキツ>

#### ○開花期前後の病害虫防除対策

満開期～落弁期は、灰色かび病、そうか病、黒点病の防除時期です。表2を参考に落弁期に防除を行ってください。灰色かび病が問題となる園や着花が多い園では、満開期にも灰色かび病の防除を行いましょう。

灰色かび病は落弁期の花卉に発生します。そのため、こまめに枝を揺する等して花卉を除去することも効果的な防除方法です。

また、本年は冬期からミカンハダニの発生が多く推移しています。園地で発生がみられる場合はマシン油乳剤 200 倍を散布してください。

表2 露地カンキツの開花期前後の防除

散布時期	対象病害	薬剤名	FRAC ※コード	備考
満開期	そうか病 灰色かび病	フロンサイド SC		
		ストロビードライフロアブル	29 11	
		ナリア WDG	11+7	
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11 7	
		フルーツセイバー	3+11	
		ナティーボフロアブル パレード 15 フロアブル	7	
落弁期	そうか病 灰色かび病 黒点病	ストロビードライフロアブル	11	黒点病防除として加用する 剤
		ナリア WDG	11+7	ジマンダイセン水和剤
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11 7	+ ペンコゼブ水和剤
		フルーツセイバー	3+11	エムダイファー水和剤
		ナティーボフロアブル パレード 15 フロアブル	7	

※殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

#### ○チャノキイロアザミウマ対策

チャノキイロアザミウマは5月頃から10月頃まで長期にわたって果実を加害します。本虫の発生が多い園では5月中下旬にアクタラ顆粒水溶剤2,000倍、アドマイヤーフロアブル2,000倍、ロディー乳剤2,000倍等を散布してください。

#### <ナシ>

#### ○黒星病対策

摘果期以降はキノドーフロアブル、ベルコートフロアブル、デランフロアブル等の予防剤を主体に防除を行います。DMI剤は、耐性菌の発生を防ぐために5月上旬～6月中旬まで基本的に使用しません。ただし、黒星病が発生した場合はDMI剤のスコア顆粒水和剤4,000倍、アンビルフロアブル1,000倍等を直ちに散布します。

また、1つの果そうに多数の果実が着果していると、薬剤散布の際に薬液の付着ムラが起きやすくなるとともに、薬液や雨滴が乾きにくくなります。そのため、摘果作業を早めに実施し、病害が発生しにくい環境づくりを行いましょう。

トンネル栽培等では、薬剤を散布せずにビニルを除去すると本病が多発します。そのため、ビニル除去の直前または直後には必ず防除を行ってください。

#### ○ナシヒメシクイ対策

ナシヒメシクイ対策として、交信攪乱フェロモン剤を設置します。資材はコンフューザーNとナシヒメコンの2種類があり、それぞれ効果のある害虫の種類が異なりますので、初めて使用する際は指導機関（JA、普及センター等）に相談してください。

また、フェロモン剤の効果は3～4カ月程度持続しますが、ナシヒメシクイに対する直接の殺虫効果はありません。園外で交尾した雌成虫が園内に侵入、産卵して被害が発生する可能性や、モモノゴマダラメイガ等のようなフェロモン剤の効果がない害虫による被害が発生する場合があります。資材を設置した後も園内の害虫の発生状況をよく観察し、随時薬剤による防除を行ってください。

#### <ブドウ>

#### ○べと病対策

開花期前後からの防除を徹底します。近年、べと病が多発生して早期落葉する園がみられるので、発生に注意してください。多発生する園では、落弁期～顆粒小豆大期に浸透移行性の高いリドミルゴールドMZ1,000倍やベトファイター顆粒水和剤3,000倍等を散布します。これらの薬剤は、散布後に伸長した葉にも浸透移行するため、新梢伸長期の防除に効果的です。

#### ○晩腐病対策

露地ブドウなどで、昨年本病が発生した園では特に防除を徹底します。落弁期から果粒小

豆大期にアミスター10フロアブル1,000倍等を散布します。散布ムラがないよう果房に丁寧に散布し、また、棚上からも散布してください。ただし、袋の止め口が緩いと、雨滴とともに菌が袋内に侵入して感染します。雨滴が流入しないよう袋の止め口はしっかりと締めてください。

#### ○チャノキイロアザミウマ対策

アディオフロアブル1,000倍、スカウトフロアブル2,000倍、ディアナWDG5,000倍、ダントツ水溶剤4,000倍等を散布します。特にアディオフロアブルは果粉の溶脱や果面の汚れが少ないため、果実が肥大してからも使用できます。

また、本虫は軟弱な葉で増殖しやすいため、副梢の摘心を徹底するとともに副梢に着生する2番花（果）房は見つけ次第剪除してください。

#### <カキ>

#### ○炭そ病対策

枝に発生する炭そ病の病斑は重要な伝染源です。新梢に発生を確認した場合は早急に取り除いてください。薬剤散布は、5月上旬にジマンダイセン水和剤500倍を散布し、累積降雨量150~200mmを目安に同剤を追加散布します。散布の際は樹の上部までたっぷり散布してください。

#### <キウイフルーツ>

#### ○灰色かび病対策

幼果に付着した花弁に灰色かび病が発生すると、落果したり果面に傷がついたりします。落弁期にロブラール水和剤1,500倍等を丁寧に散布しましょう。

#### ○かいよう病対策

昨年よりも発生が多い園地がみられるため、防除対策を徹底しましょう。本病の発生の有無にかかわらず、6月まで定期的に（1回/月）コサイド3000 2,000倍（クレフノン200倍加用）、アグレプト水和剤1,000倍、カスミン液剤400倍等を散布します。ただし、品種によって使用できる薬剤が異なるため、栽培暦や関係機関の指導に従って散布薬剤を選択してください。

また、今月は葉（褐色の斑点症状）や枝（新梢の枯死）に症状が生じやすい時期であるため、園内をよく観察し、発生を認めたら早急に除去してください。切除した枝葉は伝染源となるため園内に放置せず、園外に持ち出して土中に埋めるなど適切に処分します。切除に使用した器具はエタノール70%、次亜塩素酸ナトリウム0.02%等での消毒を徹底してください。

#### ○クワシロカイガラムシ対策

5月はクワシロカイガラムシの重要な防除時期です。アプロード水和剤1,000倍やスプラ

サイド水和剤 1,500 倍を散布ムラがないよう丁寧に散布します。